



今年もインフルエンザ流行の季節がやってきました。ちまたでは、ノロウイルス流行が話題となっています。今回は、当院でのインフルエンザ、感染性胃腸炎(ノロウイルスなど)の流行拡大防止の取り組みについてのお話です。お付き合いください！

★インフルエンザとは？★

インフルエンザとはインフルエンザウイルスへの感染により、上気道から下気道におよぶ呼吸器症状とともに発熱、頭痛、腰痛、全身倦怠などの著明な全身症状を特徴とする急性呼吸器感染症です。

★インフルエンザの感染経路は？★

インフルエンザにかかっている人の咳やくしゃみ、唾液や鼻水が飛散して、インフルエンザウイルスが放出されます。ウイルスは(1)～(3)の感染経路で体内に侵入します。

- (1) 飛沫感染: 咳やくしゃみなどによって放出されたウイルスを直接吸い込む
- (2) 接触感染: ウイルスが付着したものを触った手で、目や鼻、口などに触れる
- (3) 空気感染: ウイルスを含む細かい粒子が空気中を漂い、この粒子を吸い込む

★病院での感染拡大防止対策は？★

- ① 手指衛生 (手洗い)
流水・石けんによる手洗い、また、アルコール製剤による手指衛生を行っています。
- ② マスク (咳エチケット)
患者さんが部屋から出る場合はマスクをつけてもらっています。患者さんの1m以内に近づく場合は、医療従事者および面会者はマスクをつけるようにしています。感染者がマスクをつける方が感染を抑える効果が高いと言われています。
- ③ 患者の病室
患者は可能な限り個室療養としています。個室の確保が困難な場合は、インフルエンザのみの大部屋(多床室)療養としています。大部屋の場合は、間仕切りなどで仕切るか、ベッド間隔2m以上離すことで、感染拡大防止に努めています。
- ④ リハビリ
インフルエンザの感染症状がある期間および症状消失後2日間のリハビリは中止となります。
- ⑤ 職員がインフルザにかかってしまったら
発熱を含む症状が消失した日から3日間までを出勤停止としています。4日目以降の職場復帰は主治医の判断に基づいています。





★感染性胃腸炎とはどんな症状ですか？★

- 主な症状は、吐き気、嘔吐、下痢、腹痛であり、発熱は軽度です。
 - 通常、これらの症状が1～2日続いたのち、治癒し、後遺症もありません。
- また、感染しても発症しない場合や軽い風邪のような症状の場合もあります。
原因として、ノロウイルスやロタウイルスなどによる感染が多いようです。

★ノロウイルスの潜伏期間や感染経路は？★

潜伏期間は1～2日です。
感染経路は原則、接触感染ですが、空気感染も起こることがあります。

★病院での感染拡大防止対策は？★

① ノロウイルスの感染が疑われる場合の初期対応

原因不明の下痢あるいは嘔吐のみられる場合や、必要と考えられる際には、便あるいは吐物のノロウイルス検査を行って、十分な経過観察を行っています。特に、11月から3月にかけてのノロウイルスの流行期には、積極的にノロウイルスの検査を行っています。

原因不明の下痢および嘔吐の両方がみられる場合には、感染性胃腸炎を強く疑い、ノロウイルスの検査を行うとともに、隔離の必要性について十分に検討し、必要と考えられれば、個室療養としています。

② ノロウイルス感染における対策

[必須事項]

- ア) 介助者は必ずサージカルマスクと使い捨ての手袋を着用し作業を行っています。
使用後のマスクと手袋はビニール袋等に入れ口をしっかりと縛って密封し廃棄物ボックス(ふた付きペダル式)に捨てます。
また、作業後は手洗いとうがいを念入りに行います。
- イ) エタノールや逆性石鹼は使用せず、熱湯(85℃以上)による1分間以上の加熱または次亜塩素酸ナトリウムによる消毒を行っています。
- ウ) 患者の便、吐物には多量のウイルスが含まれているため、取り扱いには十分注意しています。

③ リハビリテーション

感染症状がある間は、リハビリテーションは中止となります。リハビリの再開は症状消失後、2日間経過後としています。

④ 職員が感染した場合

病院を休みます。嘔吐、下痢など症状が消失後、2日間経過後に出勤を許可しています。

